

(公財) 中村元東方研究所 / 東方学院

東方だより

令和3年度前期号 (通号第38号)

〒101-0021
東京都千代田区外神田 2-17-2
延寿お茶の水ビル 4階
TEL : 03-3251-4081
FAX : 03-3251-4082
<http://www.toho.or.jp>
<https://www.toho-gakuin.org>

目次

理事長ご挨拶	1頁
新理事ご紹介	2・3頁
芳名録	4頁
講師・研究会員・研究員の声	5〜7頁
行事報告・今後の行事	8・9頁
新刊紹介	2・3・4・8頁
事務局通信	10頁



野生司香雪とサールナートの仏伝壁画

——理事長ご挨拶にかえて——

前田専學理事長



インドのワーラーナシー（ベナーレス）の近くにあるサールナート（鹿野園）は、ブツダが初めて教えを説いた（初転法輪）場所としてよく知られている。サールナートには、インドの風土や歴史を踏まえ、全長約四十四メートル、高さ約四・四メートルのブツダの生涯を描いた日本画の大壁画が飾られた寺院がある。寺院の名は初転法輪寺（Mulagandhakutivihara）という。その仏伝壁画を、あのインドの過酷な風土の中、五年もの歳月を費やして完成させたのは日本人画家、野生司香雪画伯である。

中村元先生のお父上は、野生司画伯と同じく、香川県のご出身であり、中村先生は「わたくしは香雪画伯の絵にひかれ、仏教伝道協会で複製した涅槃図を自宅の仏壇にかかげ、毎日拜んでいる」と書いておられる（横濱茂樹・中村義博『野生司香雪』、二〇一六、一四〇頁）。

私は一九六三年にはじめて初転法輪寺に詣で、その他の仏教遺跡には見られない、その近代風の建物に先ず驚き、中に入って、そこに展開されている野生司画伯の気迫のこもった日本画の世界に再度感動したことを昨日のことにように思い起こす。実は私の亡くなった父の雅号が奇し



くも香雪であり、私は大学で仏教の入門講義の時
には仏教伝道協会が複製された仏伝図を学生諸君
に見せて、ブツダのお話をするのが常であった。

しかもその初転法輪寺は、インドの仏跡が
荒廃しているのを見て、仏教復興の志を抱
き、一八九一年に大菩提会（The Mahabodhi
Society）を設立したスリランカ人のダルマパー
ラ（Anāgarika Dharmapāla 1864-1933）が、一九三一年にハワイのカナカ
族の王家の血筋を引いたフォスター夫人（Mrs. Mary E. Foster）の後援
を得て完成した。ダルマパーラは一九三三年四月肺炎のため六十九歳で
この寺院で亡くなったという。

インドでの仏教復興を願ったダルマパーラが、西洋やインドの画家
にではなく、日本人の画家に初転法輪寺の仏伝壁画を委嘱したのは、
一九〇二年岡倉天心、ヴィヴェーカーナンダと共にブツダガヤー、ナー
ランダー、サールナートを旅行したことがあり、また岡倉天心は彼とヴィ
ヴェーカーナンダを東京に招いたことがあり、横山大観、荒井寛方ら日
本画壇の人々と深い関わりがあったからである。

この初転法輪寺は先ほど述べたように一九三一年に建立され、ブツダ
の一代記の壁画は一九三六年に完成した。奇しくも私は初転法輪寺と同
い年であり、今年卒寿を迎えた。諸行無常の理のように、壁画に剥落が
生ずるなど保存修理が必要となり、香川県にある野生司香雪画伯顕彰会
の手によって第一期保存作業が無事終了し、目下第二期工事が準備中
である。一日も早い修復作業の完成を祈っている。

新理事ご紹介

理事新任のご挨拶

—大根島・中村元記念館で思う

藤井教公理事



このたび中村元東方研究所新理事に選任された藤井教公です。中村元先生が東大ご退官の後に、東方研究会を

設立、それを母胎として東方学院を開校され、大学以外の場所にインド学仏教学を教育研究する組織を創られたことは大きな意義のあることかねがね尊敬申し上げておりました。今日まで発展的拡充を続けてきた東方学院の、その組織の運営の一翼を私が担うことになると思ひもありませんでした。

平成二十五年に日本インド学仏教学会が中村元先生の生誕の地、島根県松江市で開催された折り、学会終了後に年下の友人数人とレンタカーを借りて大根島の中村元記念館を訪れた時のことです。明るくきれいな市役所八東支所ビルの二階にある記念館には中村先生の書齋が再現されており、先生はこういう場所である膨大な仕事をなされたのか、と感銘

を受けました。それはパソコンやプリンター、コピー機、ファックスなどといった機器がある、現在の我々の部屋の光景でなく、原稿用紙と万年筆、カードと文献資料で仕事をされた一世代昔の書齋の風景でした。三万冊を超える膨大な蔵書は一部を除いてまだ整理中段ボールに入れられ、倉庫に収納されています。今日、我々はインターネットや電子メールの利用、ワープロやコピー機などによって大分時間を節約できているはずなのに、私に限ってはそれに見合った成果が得られていない。先生と比べるのは烏澁の沙汰ではありませんが、その時、大いに肝に銘じたものでした。

前田専學先生には学生時代からお世話になり、現在も東方学院に講師としてお招きいただいています。そのご恩に少しでも報いることが出来ればと思っておりますが、新米理事のことゆえ、前田専學先生初め、先輩理事の方々、釈悟震総務、加藤みち子副総務の皆様のご指導を頂きながら努めたいと思っております。どうぞよろしくお願ひ致します。

ふじい きょうこう

1948年、静岡県生まれ。東京大学大学院人文科学研究科印度哲学専修課程博士課程単位取得満期退学。浜松大学教授、北海道大学大学院文学研究科教授を経て、現在、国際仏教学大学院大学教授・学長、北海道大学名誉教授。

新刊案内

釈悟震著『[改訂新版] 人類の共生と平和の尊びを求めて』

2020年刊行の書物の改訂新版。仏教創始以来2500有余年、「シャーキャムニ」(釈迦)の教えを今なお変質させることなく、ありのままに継承する秘境の国とも云われるスリランカ。度々のフィールドワークを通して著者の実体験により得られたこの国の実情を、臨場感あふれる豊富なカラー写真付きで収録する好著。前近代におけるキリスト教と仏教の対論、近年世界的に注目されているサルボータヤ運動、森林行者(アーランニャ)の実相、そして業論の新しい地平を開く「業報の改変」におよぶ多彩なテーマの7章を収録。



単行本：312頁
出版社：白峰社(販売元：山喜房仏書林)
発売日：2021年8月15日

ISBN-13：978-4-938859-36-7
言語：日本語
定価：本体3000円(税込)

「現代の寺子屋」の

精神を大切に

佐久間留理子理事



二〇二一年六月に(公財)中村元東方研究所の理事を拝命致しましたので、ご挨拶を申し上げます。

私は本研究所の専任研究員を長らく勤めさせて頂きましたが、四年ほど前、現在の本務校に赴任するため退職しました。この度の理事就任は、私にとりまして正に青天の霹靂という他ありません。重責を担うこととなりましたが、誠心誠意、本研究のために尽したく存じます。

故中村元博士は、本研究所を母胎として東方学院を設立されました。学歴・年齢・国籍等に関わりなく志ある者が誰でも学ぶことができる場は、「現代の寺子屋」として多くの方々に親しまれてきました。また、本研究所にとって、東方学院は社会貢献活動の場であり、法人の公益性・公共性を担保するものでもあります。

私は研究員の頃、社会貢献活動の一環として、当時の同僚らとともに公開講座を実施し

ました。その一つである「中村元インド哲学カフェ」は、関西の研究者が中心となって開催されました。当時私は名古屋市内に住んでいましたが、その企画に加わり発表も行いました。例えば、第五回「インド古典文学へのいざない」(二〇一一年七月一六日、於大谷大学)では、インド人にとつてのバイブルと言われる『バガヴァッド・ギーター』(神の歌)に説かれたヨーガやヴィシュヌ神のイメージについて解説しました。また、中部教室(現・中部校)でも公開講座を開催しました。例えば、「ヨーガへのいざない」(二〇一三年九月一〇日、於東別院会館)では、ヨーガの理論と実践の説明の後、畳の部屋で坐禅の実習を行いました。参加者全員でテーマについて対話し実践することは、私にとつて貴重な経験となりました。それは、現在の私の教育活動においても活かされています。

この度、再び本研究所に関わることとなりましたが、「現代の寺子屋」の精神を大切にしながら公開講座等の社会貢献活動を支援したく存じます。宜しくお願い致します。



さくま るりこ

1962年、兵庫県生まれ。大阪外国語大学外国語学部タイ・ベトナム語科卒業。名古屋大学大学院文学研究科東洋哲学専攻博士課程単位修得の上満期退学。博士(文学)。大阪観光大学観光学部・教授。

新 刊 案 内

北川前肇著 『法華経へのいざない 誰もが等しく救われる釈尊の教え』

法華経が説く、釈尊滅後、末法の凡夫の救いをめぐって、日蓮教学の第一人者が、日蓮聖人や天台大師の解釈に触れつつ、法華経全二十八章の道筋を細やかにたどり、久遠の釈尊の真意を説き明かす。

単行本：448頁
出版社：大法輪閣
発売日：2021年5月7日
ISBN-13：978-4-8046-1433-5
言語：日本語
定価：2,420円(税込)



令和3年度芳名録 (五十音順・敬称略)

本年度も多くの皆様にご支援いただきました。心から御礼を申し上げるとともに、ご芳名を記します。

※令和3年9月10日受領分までを掲載しております。

維持会員

一心寺 石上和敬 宇杉真 小笠原勝治 川崎寿子 川崎大師平間寺 来馬明規 宗教法人西来寺 史跡足利学校校務所 釈悟震 株式会社春秋社 淳心会(日野紹運) 末廣照純 浅草寺 高崎宏子 高橋堯英 多田孝文 中央学術研究所 千綿道人 角田泰隆 トヨタ自動車株式会社 中田直道 成田山新勝寺 念法真教金剛寺(桶屋良祐) 羽矢辰夫 公益財団法人仏教伝道協会 法恩寺(藤原敏文) 法清寺(奈良修一) 前田專學 前田式子 松久保秀胤 三木純子 水野善文 薬王院 吉田宏哲 渡邊信之

賛助会員

秋葉佳伸 阿部敦子 粟野芳夫 飯高淑子 石井勝彦 一島正真 今西順吉 石上智康 白井ふじ子 遠藤康 大井玄太田正孝 大谷光真 小笠原隆元 岡田真水 緒方康信 オリオン産業株式会社 桂紹隆 菅野博史 北村彰宏 木村清孝 窪田成圓 倉田治夫 黒田大雲 小林守 小林和子 小峰啓誉 古村けさじ 小山典勇 斎藤明 齊之平伸一 佐久間秀範 佐久間留理子 櫻井瑞彦 櫻井隆広 桜井俊彦 慈光院(戸田忠) 真観寺(中村重継) 末木文美土 菅沼莊二郎 須佐知行 鈴木忠一 鈴木勇介 関戸堯海 高橋審也 高松孝行 高松榮子 田上太秀 武田浩学 立花ひろ子 田中勝洋 田中ケネス 田丸淑子 千葉よし子 鶴谷志磨子 天寧寺(永江雅邦) 當間哲也 公益財団法人東洋哲学研究所 一般財団法人徳育経営研究所 戸田裕久 鳥山玲 中谷信一 中村行明 西尾秀生 西岡祖秀 西川高史 西宮寛 日本ヨーガ学会 日本ヨーガ禅道院 畠中光亨 花岡秀哉 馬場孝至 一月正人 平井恭子 笛木敬代 福留順子 福原正直 身延別院(藤井教公) 藤井知興 宗教法人法雲寺(水谷浩志) 寶幢院(原隆政) 堀江順司 堀越教之 松浦和也 松本知己 的場裕子 三木保 水谷俊一 三友量順 宮元啓一 弥勒密寺(上村正剛) 森祖道 宗教法人薬師院(松原光法) 矢島浩志 矢島道彦 山口泰司 桂徳院(山本文溪) 好井瑞皖 渡邊寶陽

ご寄付

光地英隆 岡村光展

東方学院創立50周年記念事業ご寄付

石上善應 石上源應

学院50周年創立事業

多くの方々の温かいご理解とご支援によりまして、公益財団法人中村元東方研究所は去る2020年11月、東方学院は2023年4月に、それぞれ創立50周年を迎えようとしております。そこで、来たる2023年度に東方研究所／東方学院の50周年を併せた記念誌の刊行および記念行事を予定しております。本件について、新型コロナウイルスをめぐる難儀つづきの苦難の世相にも拘わらず御芳志を賜った方々に深謝をこめてここに御報告を申し上げます。

新 刊 案 内

西村実則著 『近代のサンスクリット受容史』

本書は、ヨーロッパならびにインド、セイロン(現スリランカ)に原典研究の目的で留学した仏教学者の、西洋の師との出会いとその後の事跡を中心に、我が国がサンスクリットを受容した歴史を鳥瞰する。

単行本：192頁 ISBN-13：978-4-7963-0321-7
出版社：山喜房佛書林 言語：日本語
発売日：2021年4月26日 定価：本体3,300円(税込)



東方学院

講師ご紹介

渡辺章悟 講師

(東京本校)



若き日の希求心

私は群馬県高崎市の禅寺に生まれましたが、最初から仏教に興味を

持っていたわけではありませんでした。大学では哲学を志し、当時流行していた現象学や実存主義と言った思想に傾倒していました。ただ、当時は学生運動が激しかった時代で、大学で落ち着いて学問をするような雰囲気ではありませんでした。放浪癖のあった私は荒れた大学生活を避け、頭陀袋を下げてアルバイトをしながら国内のあちこちを歩いていました。そして、二十歳前後の頃、一年ほどインドに行つてヒッピーのような生活をしましたが、その時持参していたのが東西のニヒリズムに関する論文集でした。その中には後に進学することになる東洋大学の二名の先生(泉治典・田村芳朗)の論文が収録されていました。自己とは何かという問いを求め続けたこのインドの放浪は私に大きな精神的展開をもたらしました。帰国後、東洋哲学に興味を持ち始

めた私は、三論研究の泰斗であった泰本融先生の指導で空思想を中心とした仏教学を志すようになりました。また、その当時は谷中の興禅寺住職でありながらカント哲学の権威であった山崎正一教授がおられ、その影響のもとで「カントの因果律と仏教の縁起」というテーマで卒業論文を書いたものです。

さらに泰本先生の薦めによって東洋大学大学院に進学し、菅沼晃教授のもとで Nagarjuna (龍樹) から、さらにその思想の根源となる「般若経」の研究に向かいました。それ以来、学研生活はデリー大学でのインド留学を含め、四十年ほどになります。そして二〇二〇年には期せずして中村元東洋学術賞を受賞させていただきましたが、私としてはまだ道半ばと思っています。今でも大乗仏教研究の根幹として、研究を継続しています。ただ、本当に限りがありません。ただ、若いころに志した自己の探求が今の私を形作り、研究を持

続できたことは間違いありません。その意味でも若き日の希求心の大切さを実感しています。



わたなべ しょうご

1953年、群馬県生まれ。東洋大学大学院博士後期課程満期退学。博士(文学)。現在東洋大学文学部教授、東洋学研究所所長。著書に『般若経の思想』(春秋社)、『金剛般若経の研究』(山喜房佛書林)などがある。

福田 琢 講師

(中部校)



世親思想の足跡を追う

『ブツダ最後の旅 大パリニッバーナ経』が岩波文庫から刊行された時、

私は高校二年生でした。この本との出会いがきっかけで、すでに刊行されていた『ブツダのことば スッタニパータ』(旧版)、そして『真理のことば・感興のことば』と、中村先生の現代語訳を通して、次第に初期仏教の世界に入り込んでいった私は、興味のおもむくまま仏教系の大学に進学し、パリ・ニカーヤを原典で読むゼミに入りました。ゼミでは院生や助手の先輩たちから、何を学ぶにもまず基本は『俱舎論』からと教えられて『俱舎論』講読の授業や輪読会に加わり、卒業論文では説一切有部の修行道論に取り組みました。書き上げてみると、もう少しアビダルマ研究をやりたくなくなって大学院

へ進み、それがきっかけで今日までの、学者としての人生を歩むようになりました。

『俱舎論』の作者ヴァスバンドウ(世親)は、伝説では説一切有部の学僧でありながら経量部の思想に傾倒し、兄アサンガ(無著)の影響で大乗瑜伽行派へ転向した人ということになっています。ですが実際には、ヴァスバンドウの辿つた試行錯誤の歩みが、後の経量部や瑜伽行派を生み出していったと言える側面もあります。そのような関心から、中部教室で現在『撰大乘論釈』を読んでいます。アサンガの著作をヴァスバンドウが注釈した難しいテキストを相手に、熱心な受講生の方々と悪戦苦闘しております。たいへんありがたい機会をいただいたと感謝しております。



ふくだ たくみ

1963年、埼玉県生まれ。大谷大学大学院文学研究科博士課程満期退学。現在、同朋大学教授。共著書に『俱舎一絶ゆることなき法の流れ』(自照社出版)訳書に『ショパ・ラニ・ダシュ』『マハーパジャーパティ』最初の比丘尼』(法蔵館)など。

東方学院
研究会員の声

井上和子さん
(東京本校)
神様と先生に導かれて



私が仏教を勉強するようになったのは、二〇〇九年に通訳案内士の資格を取ったのがきっかけです。外国人に日本文化を紹介するのに、その基礎となる仏教の知識が、全くと言っていい程なかったからです。それからは、大学の生涯学習センターやカルチャーセンターなど、機会を見つけては仏教を学んできました。そんな中、成田山仏教文化講座での積先生と田辺先生の講座により、東方研究所の名を知りました。そして二年前、やはり講座を受けた仏教伝道協会で東方学院のパンフレットを見つけ、初めて、様々な仏教講座が一般向けに開講されている事を知り、又、「真に教えたい一人と、真に学びたい一人が集まれば学院は成り立つ」という中村元先生の言葉にも惹きつけられました。その上、その所在地も驚きでした。まさか、ここ十数年初詣を欠かした事の無い神田明神の鳥居の内側にあつたとは！ 正に、「神の導き」を感じました。また、今年の中村元先生の二十三回忌の年とお聞きしましたが、先生が亡くなられた年は、長年の転勤・引越してから解放され、ここ千葉県柏市に根を下ろした年。上野まで三十分で学院への通学も便利。恰も「ここで学べ。」と先生に言われたかの様です。

数年前、「源氏物語」を原典で通読したのをきっかけに、わが国の文化の底流にある「仏教」とは何だろう、という素朴な関心を抱くようになり、一昨年から研究会員となりました。しかし、開祖である釈尊と、幼児でも名前だけは知っている「阿弥陀さま」との関係すら、いまだによく分からないのです。ケネス・田中先生の「歎異抄」の講義を聞いても、「弥陀の本願まことにおはしまさば、釈尊の説教 虚言なるべからず。」の箇所で、なぜ「弥陀の本願」が「釈尊の説教」の上位にあるのかが不思議でした。本年度の田中公明先生の「両界曼荼羅の源流」では、阿弥陀如来は、釈尊のように悟りを開いた仏が存在することを時間的・空間的に拡張した「他土仏」であるとのこと。しかし、曼荼羅では、「他土仏」である大日如来が中心に置かれています。また、釈悟震先生の「仏教が歩んだ道」で、「他土仏」は上座(小乗) 仏教には存在しないことも知りました。加藤周一・「日本文学史序説」などが説く、阿弥陀信仰とプロテスタントイズムとの異同にいたっては、理解をはるかに超えています。

岡 邦俊さん
(東京本校)



本業(弁護士)をもう少し続けながら、初心者疑問をゆつくりと解いてみたいと願っております。

私は七十五歳になる真宗門徒です。晨朝で、正信偈等を毎朝読誦しています。声を出して唱和すると、とても気持ち良くドーパミンが分泌されるのではと思っています。さて、親鸞の「他力本願」は私にはとても難しい。そこで、お釈迦さまは何と語っていたのかと初期仏教の勉強を始めました。釈迦牟尼が説くものは、宗教というより二五〇〇年前の最先端科学(因果則、五蘊)と最先端技術(八正道)のように感じられ、技術者である私には納得しやすい論理です。独学に限界を感じ、聴講できる大学はないか探していましたら東方学院で遠隔講義があると知り飛びつきました。前田専學先生の講義を少し受けただけで長年の疑問が解消しました。ダンマパダの第四十句です。ある先生は「心を都市のように堅固に」と、中村元先生は「心を城郭のように堅固に」と、訳しています。前田先生の講義で「その当時、都市は城壁で囲まれ」とありましたので「インドの都市は中世のヨーロッパのように城郭都市だったのですか」と質問しました。「そうです」との答えで、「nagara」の訳に「城」と「都市」の二つ記載されている理由が理解できました。講義を受けることは素晴らしい。

加藤壯祐さん
(中部校・東京校オンライン)
講義は素晴らしい

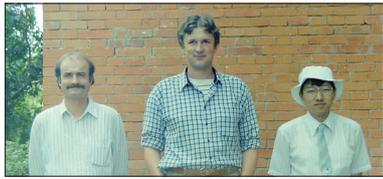


無断転載・複製を禁ず

研究員の声

田中公明専任研究員

中村元先生とネパール



ネパール研究所にて(1988年)
(左からクーパーズ博士(代理監督)、エ
アハルト博士(監督)、筆者)

がネパール
の大学は未
整備で、国
立のトリブ
バン大学で
すら仏教学
の講座は存
在しなかつ

私が東方研究会(当時)の門を叩いたのは、一九八八年六月のことである。私は以前から、ネパールに伝えられたサンスクリット語の仏典に関心をもっていた。時あたかもネパールでは、当時の西ドイツとネパール政府の共同事業としてネパール・ドイツ写本保存計画 Nepal German Manuscript Preservation Project が進行中であつた。いまネパールに行けば、これまで知られていなかった重要文献の原典を発見することも夢ではないとの期待があつた。ところが

た。きちんとした受入機関がないため、やむなく大学を辞して、東方研究会の専任研究員としてネパールに向かうことになった。

ネパールから帰国後の一九八九年、成田山仏教研究所で国際チベット学会が開催され、ネパール・ドイツ写本保存計画のドイツ側の事務局である Nepal Research Centre の現地監督と代理監督が来日し、懇親会の席上、中村先生にご紹介したことがあつた。

その時、中村先生は、「ネパール・ドイツ写本保存計画には、敬意を表する。しかしこのプロジェクトは、本当は日本がやるべきことだった」と述べられた。私は一年間、写本保存計画をつぶさに見学したが、先生が述べられたことは、まさに私がネパールで感じたことそのままであつた。私は改めて、中村先生の学問にかけた自負と気概を感じたのであつた。

たなか きみあき

1955年、福岡県生まれ。東京大学大学院修了、東京大学文学部助手を経て東方研究会(現中村元東方研究所)専任研究員。

柴崎麻穂専任研究員

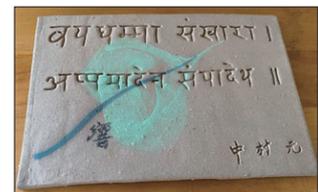
中村元博士二十三回忌によせて

—テラコッタに托されたことば—

私の机の引き出しの奥には、三十年ほど前に中村先生から直接頂いた大切な品がしまわれている。それは縦一 cm、横一六 cm の素焼きのプレートで、中村先生直筆のデーヴァナーガリー文字でパリー語仏典のある一節が刻まれている。また、その一節に、仏教遺跡などをテーマとした作品で知られる石川響画伯の描いたうすみどり色の菩提樹の葉のイラストが添えられている。これは、中村先生が某所に寄贈された原稿を、テラコッタ風の板に再現し転写して焼いたものと伺っている。

その一節は以下のとおりである。
vayadhammā sankhārā/
appamādena sampādeha//

「もろもろの事象は過ぎ去るものである。怠ることなく修行を完成なさい」(中村元訳『ブツダ最後



の旅―大パリニツパーナ経』岩波文庫、一五八頁)

これは、パリー語仏典『大パリニツパーナ経』(『大般涅槃経』)の一節で、ブツダが他界する前に語った最後のことばとして知られている。テキストはこの後に「これが修行をつづけて来た者の最後のことばであった」という文が続く、節が結ばれている。

中村先生は、このプレートを当時の研究員の方々に配布された記憶している。その一つを、研究所の事務局でお手伝いをしていた大学院に進学したばかりの私にも下さつたのだ。

二十三回忌を機に、このプレートに記された仏典の一節を、中村先生から研究員への激励の言葉として深く心に刻みたい。

しばさき まほ

横浜生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学。同研究科助手を経て、財団法人東方研究会専任研究員(現・公益財団法人中村元東方研究所)。古代インド説話研究に従事。岡山大学非常勤講師。

行事 イベント 報告

令和3年2月16日(火)開催
**新春研究発表会
オンラインにて開催**

2月16日、午後4時〜午後6時30分、中村元東方研究所初のオンライン形式の講演会として「新春研究発表会」が開催されました。講師は拓殖大学講師の澤田彰宏氏、演題は「ヒンドゥー教チャイタニヤ派の寺院の組織と運営―北インドのヴリンダーヴァンでの調査から―」、および東洋大学教授の渡辺章悟氏「般若の智慧と大乘の転法輪」。初のオンライン開催にもかかわらず、53名の参加にて活発な質疑が行われ、あたたかな空気のもった盛会のうちに円了しました。



令和3年7月3日(土)開催

令和3年度研究員総会 オンラインにて開催

7月3日、午後3時から5時、オンライン形式で令和3年度研究員総会ならびに研究発表会が開催されました。研究発表会の部では、山崎一穂研究員「仏教美文詩と詩論」および金子奈央研究員による「中国禅宗清規に見る住持の葬送とその表象―一次葬以前を中心に」の熱意ある報告に対し、専任研究員15名による専門ジャンルを超えた学際的で鋭い質疑が縦横に飛び交う盛会となりました。

【今後の行事のご案内】

★中村元博士23回忌記念講演会
オンラインにて開催

本研究所の創設者中村元博士(1912〜1999)の没後22年目を迎えるにあたり、令和3年10月8日午後2時〜午後4時、「中村元博士23回忌記念講演会」をオンライン形式にて開催いたします。講師は、釈悟震先生(中村元東方研究所・総務

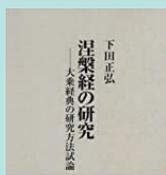
兼講師)「いまなお新しい中村元博士の叡智」、および三木純子先生(中村元博士ご息女)「父の23回忌に寄せて」となります。

★「第31回中村元東方学術賞」および「第7回中村元東方学術奨励賞」授賞者決定、授賞式はオンラインにて開催



2021年度の顕彰事業、「第31回中村元東方学術賞」及び、若手研究者に贈

られる「第7回中村元東方学術奨励賞」の授賞者が、選考委員会による厳正な審査の結果、決定しました。第31回中村元東方学術賞は、下田正弘氏(東京大学大学院教授)が受賞。同氏は「大乘涅槃經」を中心に大乘仏教成立史の研究および、『大藏經』の電子データベース化事業を進め、人文情報学 Digital Humanities の推進に多大な貢献をしたことが



新 刊 案 内

末木文美士著 『増補 仏典を読む 死から始まる仏教史』

ブツダの死後残された人々が、その死を乗り越えようとしたことに、仏教の誕生を見出す。死者すなわち他者と向き合うことを仏教の本質と捉え、親しみやすい訳で、インド・中国の仏典を読み解く。そして日本に伝わった仏教では、土着化と原点回帰の2つの動きがせめぎ合う中、独特のダイナミズムが生まれた。世界の中でも異色とされる、日本仏教について考える。増補「仏典をよむ視座」を収録し、直近10年間の新たな研究成果を加えた。



文庫：416頁
出版社：KADOKAWA
定価：本体1,232円(税込)

ISBN-13：978-4-04-400631-0
言語：日本語
発売日：2021年1月22日

評価されての授賞です。また、若手研究者を対象とした、第7回中村元東方学術奨励賞は、松川雅信氏（日本学術振興会特別研究員PD）の『儒教儀礼と近世日本社会―闇齋学派の「家礼」実践』が受賞。若手研究者としての将来性を期待して、授賞が決定しました。



なお、例年インド大使館で開催されておりました両賞の授賞式は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインにて開催することとなりました。日時は令和3年10月8日（金）午後5時～午後6時30分、オンライン会議ソフトZOOMを使用したWEB開催です。



新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う、令和3年の諸行事遂行状況

当法人では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、三密の可能性のある令和3年の諸行事を中止乃至、書面による開催、またはオンライン開催への移行により対応しております。当該の経緯につき左記のとおり報告いたします。

【略号：◆新型コロナウイルス関係、◆法人関係】

- ◇令和3年1月8日 緊急事態宣言発令（1月8日～3月21日）
- ◆令和3年2月9日 第18回法人評議員会書面による開催
- ◆令和3年2月16日 新春研究発表会オンライン開催
- ◆令和3年2月25日 第18回法人評議員会書面による開催
- ◆令和3年4月1日 法恩寺仏教文化講演会次年度へ延期決定
- ◇令和3年4月7日 緊急事態宣言発令（4月25日～5月11日）
- ◆令和3年4月18日 東方学院

全校、オンラインのみの講座を除き4月19日～5月9日まで休講措置施行

◇令和3年5月7日 緊急事態宣言5月31日まで延長

◆令和3年5月7日 東方学院東京本校の教室開催の講義を、5月31日まで休講、教室オンライン併用講座の教室受講者は可能な限りオンラインに移行措置施行

◆令和3年5月18日 神儒仏合同講演会次年度へ延期決定

◇令和3年5月28日 緊急事態宣言6月20日まで延長

◆令和3年5月28日 東方学院東京本校の教室開催の講義休講、教室オンライン併用講座の教室受講者は可能な限りオンラインに移行措置を6月20日まで延長

◆令和3年5月25日 第19回法人評議員会書面による開催

◆令和3年6月2日 第31回中村元東方学術賞選考委員会、書面による開催

◆令和3年6月17日 第19回法人評議員会書面による開催

◆令和3年7月3日 令和3年度研究員総会オンライン開催

◆令和3年7月12日 第19回法人評議員会および理事会議決完了に伴い、法務省東京法務局にて「法人登記簿更新」完遂

◇令和3年7月12日 緊急事態宣言発令（7月12日～8月22日）

◆令和3年7月12日 東方学院東京本校の教室開催講義の夏季休暇を繰り上げ、9月の後期授業開始を二週間早める措置施行

◇令和3年8月17日 緊急事態宣言9月12日まで延長

◇令和3年9月9日 緊急事態宣言9月30日まで再延長

◆令和3年9月9日 東方学院東京本校の教室開催の講義休講、教室オンライン併用講座の教室受講者は可能な限りオンラインに移行措置を9月30日まで施行

以上



事務局通信

【編集部より】 東方だよりは、読者の皆様からのご意見・ご要望をいただき、よりよい誌面にしていく所存です。また、ご寄稿もお待ちしております。尚、ご連絡は手紙（宛名面に「東方だより編集部宛」とご記入願います）にて承っております。

当研究所の活動にご賛同下さる皆様へお願い

公益財団法人中村元東方研究所は、創立者中村元の理想を実現するため活動する非営利の文化事業財団であり、その運営はご理解ご協力いただける皆様からのご寄付により成り立っています。当研究所では各種会員を設定して、活動趣旨にご賛同いただける皆さまの積極的なご支援をお願いしております。

(1) 一般寄付

一般寄付は会費と異なり、金額や期限等を設定せずに、随時受け付けさせていただいております。お寄せいただいた寄付金は、当法人が取り組んでいるさまざまな活動に広く活用させていただきます。

(2) 継続ご支援（維持会員・賛助会員）

当法人の活動に賛同し、継続的に支援して下さる会員も随時募集しています。

- ・維持会費：一口 年 50,000 円
- ・賛助会費：一口 年 10,000 円

※上記いずれかをお選びいただき、出来れば複数口でご支援賜れば幸いです。

(3) 普通会員：年会費 7,000 円

普通会員にも、維持・賛助両会員と同じく、定期刊行物『東方』の他、催し物、会合等のご案内をお送りいたしますが、年会費に税の優遇措置は適用されません。

【所得税の免税について】

当法人は内閣府の認定を受けた「公益財団法人」であり、さらに、令和2年3月27日に「税額控除」対象法人の要件を満たす証明書を内閣府より受けましたので、上記（1）（2）の一般ご寄付及び維持会賛助会の会費は、税制上の優遇措置を受けられます。①「所得控除」②「税額控除」のいずれか減税効果の高い方を選択できます。

多くの場合、「税額控除」を選択されると所得税額が少なくなり有利となります。一方、所得税率の高い方は、「所得控除」を選ばれると還付額が大きくなる場合もあります。確定申告の際には最寄りの税務署にご相談ください。

公式ホームページのご案内

東方研究所及び東方学院の公式ホームページでは、さまざまな情報が随時更新されております。是非ご覧下さい。

ホームページ URL : <http://www.toho.or.jp>

中村元東方研究所

検索

- ▶当研究所の目的・理念・あゆみ
- ▶中村元博士の略歴・著作文献目録
- ▶東方学院（開講科目、講師紹介、著書紹介）
- ▶専任研究員紹介、書籍案内
- ▶公開講座、イベントのお知らせや開催レポートなど

東方学院専用ホームページ URL :

<https://www.toho-gakuin.org>

（スマートフォン対応）

東方学院

検索

- ▶東方学院の開講科目や講師の紹介、開講日などをご案内しております。

東方だより 令和3年度 前期号（通号第38号）

令和3年10月1日発行

【編集 / 発行】 公益財団法人中村元東方研究所 本部事務局（東京）

編集責任者：釈悟震

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-17-2 延寿お茶の水ビル 4 階

TEL : 03-3251-4081 FAX : 03-3251-4082